

家族で子育て

29 Q & A



Q

3歳のわが子が、歩いたり遊んだりしながら、何かぶつぶつ、つぶやいているのが気になります。

幼児期は独り言をいながら言葉にすることで、考えがまとまったり想像力や記憶力が育ったりします。

A

内なる言語が心も育てる

子供が絵を描きながら、「ここにピカチュウがいるんだけど、あ、黄色がないね。じゃあ赤色でもいいかな」などと、独り言を言っています。だれに話しかけているわけでもなく、迷ったときなどによく見られる光景です。そばで聞いていると、微笑ましくなりますね。

3歳以降の幼児期は、独り言を言いながら「内なる言語」が育つときです。この内なる言語が育つことによって考えがまとまり、想像力が育ったり、記憶力が増したりします。自分の世

界に存分に浸りながら、心の中では言葉がどんどん葉を茂らせているのです。没頭しているときは、温かく見守ってあげましょう。

言葉の力を育てる

言葉には、行動を制御する力があります。幼児に、装置が光つたらボールを2回押すことを指示し、「押せ、押せ、1、2」と

声を出させると、うまくできません。黙ったままやらせると、まだでなくなります。言葉にすることで、言葉が行動を支えていることがわかります。言葉は、力でもあるのですね。

良い言葉は、良い心を育てます。丁寧な言葉を使えば、心も穏やかになります。スーパードで若いお母さんが、子供にぞんざいな言葉を投げつけているのを聞くと、胸が痛みます。「うるさい」は「静かにしてね」、「早く」は「急いでね」など言葉を変えるだけで、少しは余裕ができるのではないのでしょうか。

読み聞かせをしているお母さんも多いでしょう。絵本は、言葉を育てるのにぴったりです。親子が一緒に絵本で至福の時間を楽しむと、子供の心はもっと大きく育ちますよ。